

12月18日礼拝説教(隅野瞳牧師)短縮版「お言葉どおり、この身に成りますように」(ルカ1:26～38)

特別なことは何もない一人の娘を、神は救い主の母としてお選びになり、天使ガブリエルを遣わしました。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」神を離れ敵対する私たち人間を救うために、イエス・キリストにおいて神がこの世に來られた出来事こそ、神の恵みです。

天使が告げた、聖霊によって救い主を身ごもるとの御言葉をマリアは熟考し、自分の知らない世界について「あり得ない」と終わらせるためではなく、どのようにしてそれが起こるのかと尋ねました。信仰は思考停止ではなく、神との対話をくりかえすものです。真の神でありながら、罪以外のすべての点で私たちと同じ人間となられたゆえに、御子は私たちの罪の裁きを担い、復活し、御前に義とすることができるのです。神のいのちである聖霊を受け入れる時に、主イエスは私たちの内に生きて共に住んでくださいます。天使はマリアに、子を授かることなく高齢になったエリサベトが命を宿していることを告げます。「神にできないことは何一つない。」神は人間の側の可能性によらず、どんな者をも用いて御言葉を実現されます。そして私たちを愛するゆえにすべての者より低くなり、すべてを受け入れることができるのです(フィリピ2:6～8)。

マリアは全能の主が小さな自分とイスラエルに目を留め、御言葉を実現してくださる方だと信じて「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」と自らをゆだねました。私を愛し救ってくださった主にお仕えしたいから、自分から神に従う。それが主の僕です。自分の思うままに生きることは幸せなようで、実は終わりのない苦しみ、虚しさです。自分の欲望を満たすのではなく御心を選ぶ歩み、罪ある私たちの延長線上にはない新しい命を、主は与えてくださいました。「しかし、わたしの願いではなく、御心のままに」(ルカ22:42)御父に御子が従い抜かれたことによって、私たちの救いが開かれました。自分の力や思いの範囲内だけに生きる私たちに神は天使を遣わし、私の救いの計画のためにあなたが必要だと招かれます。御子のへりくだりに応えて自らをおゆだねする時に、私たちは限りない恵みのうちに主を賛美するでしょう。(終)